

研究・調査報告書

| | |
|--|----------------|
| 報告書番号 | 担当 |
| 171 | 札幌医科大学医学部薬理学講座 |
| 題名 (原題/訳) Chronic ethanol consumption regulates cannabinoid CB(1) receptor gene expression in selected regions of rat brain. 慢性的なエタノール摂取はラットの特定の脳領域におけるカンナビノイド受容体(1)遺伝子発現を調節している | |
| 執筆者 Ortiz S, Oliva JM, Perez-Rial S, Palomo T, Manzanares J. | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) Alcohol Alcohol. 39(2):88-92 (2004) | |
| キーワード エタノール、カンナビノイド受容体、遺伝子発現、依存、ラット | |
| 要 旨 <p>目的: この研究の目的はラット脳のカンナビノイド (CB(1)) 受容体遺伝子発現に与える慢性エタノール摂取の効果について検討することである。</p> <p>方法: ウィスター系ラットは52日間、エタノール溶液 (10% v/v) とサッカリン (0.25% w/v) 溶液の入ったボトルで飼育した。エタノール暴露が終了した時点でラットを断頭で殺し、CB(1) 受容体遺伝子発現を in situ hybridization によって組織化学的に検討した。</p> <p>結果: 慢性エタノール摂取は CB(1)受容体の遺伝子発現で尾状-被殻 (CPu) で 24%、視床下部の腹内側核 (VMN) で 43%、海馬の CA1 野で 27%、CA2 野で 22%の低下を生じ、歯状回 (DG) では 30%の増加を生じた。</p> <p>結論: 本研究で初めて、慢性エタノール暴露によってカンナビノイド受容体の遺伝子発現がラットの特定の脳領域で著しく変化することが示された。このことはエタノール摂取やエタノール依存の進展で内因性カンナビノイド受容体が重要な役割を果たしていることを示唆している。そして、カンナビノイド受容体はエタノール依存の治療のための新たな薬理的標的となる可能性が示唆される。</p> | |